

世界と日本の平和を脅かす

5年間で7200億円のムダづかい

PAC3配備、「ミサイル防衛」計画は中止を



講演する小泉親司さん。40人が参加

日本共産党中央委員会 基地対策委員会責任者 小泉親司さんを講師に学習会

04年度	1068億円
05年度	1198億円
06年度	1399億円
07年度	1826億円
08年度	1714億円

「ミサイル防衛」予算
(参考) 08年度予算
中小企業...1761億円
雇用・労働関係...1259億円

自民党政府が「ミサイル防衛」計画をすすめる背景には、巨額の国家資金投入をあてにして大儲けをまくるむじ米軍需産業の強い要求があります。政府は、この5年間だけで7200億円もの予算を投入。1発5億円のPAC3ミサイルは、1基に16発搭載され80億円です。ヒックスミイジ

「ミサイル防衛」予算のムダづかいを中止し 憲法9条を守って軍事費の大幅削減を

首都圏の4つの基地に配備されたPAC3はどうか。射程距離が20kmしかないため都心などに移動して迎撃するとされていますが、秒速7

「現実的な有効性試験を行わずに配備しようというのは、懸念を禁じえない。(中略) 今回の初期配備は、翼や着陸装置のない軍用機を実戦投入するよつなものだ」(フィリップ・コイル元米国防総省ミサイル防衛担当国防次官補、毎日04年5月15日) 「予見できる将来、米国が現実世界の長距離ミサイルを防御できるミサイル防衛システムを開発する展望はほとんどない」(米NGO「憂慮する科学者連盟」)

アメリカはレーガン政権以来、「ミサイル防衛」に12兆円以上をつぎこんできましたが、技術的に完成する見通しはほとんどゼロというのが、専門家の見方です。

技術的に未完成で実現不可能な計画 ミサイル拡散防止、核兵器全廃こそ

防衛省が首都圏に配備したPAC3ミサイルは、アメリカがすすめる「ミサイル防衛」計画の一環です。他国から飛んでくる弾道ミサイルからもつばらアメリカ本土を防御する「防御の楯」を強固にすることに、アメリカが先制攻撃を容易にすることが目的です。「日本の防衛」とはまったく無縁です。

「ミサイルが米国に向かうことは明らかで、日本がそれを撃ち落とさないのはクレージーだ。そんなものは日米同盟ではない」(ローレンス米国防副次官、沖縄タイムズ「06年12月6日」)

「日本防衛」とはまったく無縁 アメリカの攻撃態勢を強化するため

4月22日、富田なおき事務所と日本共産党新宿地区委員会は、防衛省がすすめる「ミサイル防衛」計画とPAC3配備について学習会を開催しました。富田なおきが、新宿御苑などで強行されたPAC3ミサイル発射能力調査について防衛省に抗議し、配備・訓練・調査の中止を要求したことを報告。両宮たけこ新宿区議が、住民のみなさんの不安の声と新宿区の対応について報告しました。小泉親司さんの講演の概要を紹介します。


「『核兵器のない世界』という目標を堅持することこそ、核兵器が他国やテロリストに拡散することを防ぐ最も重要な貢献だ」(4月17日、著名な科学者95人の連名アピール)

新宿御苑などでPAC3の訓練をおこなうのは、「ミサイル攻撃があるぞ」と宣伝して、住民をアメリカの戦争態勢に協力させようとするためです。日本が攻撃されていないのに、アメリカ本土をねらう弾道ミサイルを撃ち落とすことは、集団的自衛権の行使であり、憲法に照らしても許されません。国民の安全を脅かし危険を生み出す「ミサイル防衛」計画は中止して、ミサイル拡散禁止、核兵器全廃にこそ力を注ぐべきです。

首都圏へのPAC3配備
防衛省は、今年3月末までに、入間(埼玉県)、武山(神奈川県)、習志野(千葉県)、霞ヶ浦(茨城県)の4つの基地にPAC3を配備しました。1月14日深夜に、新宿御苑と市ヶ谷駐屯地で、住民にも新宿区にも知らせずに、発射能力調査を強行。PAC3の移動展開候補地として、明治公園やお台場海浜公園などの名前も報道されています。

「ミサイル防衛」計画の中止こそ安全への近道
小泉さんの講演を聴いて、日本を守るためのものではないことが浮き彫りになりました。PAC3はムダづかいの典型です。こんな兵器やクラスター爆弾、核兵器をなくしていくことが、一番の安全への近道だと強く感じます。
富田なおき

日本共産党衆議院東京1区若者相談室長



富田なおき
事務所ニュース

5 2008.5.18
発行：富田なおき事務所
〒162-0065 新宿区住吉町11-25
TEL 03-3357-3392 FAX 03-3353-4912
E-mail:tomita-naoki@nifmail.jp

各地域で多彩なテーマで懇談会を開催しています

日本共産党は、国民のみなさんの関心や要求にこたえて、日本の政治をどう変えていけばいいのかを語り合おうと、地域、職場、学園で多彩なテーマで懇談会を開催しています。

新宿区の柏木支部は、「雇用問題について考える懇談会」を開催。

20代の若者からは、病院の当直のアルバイトをしていたが、契約時と話が違って、救急隊からの連絡の対応までさせられ、都の最低賃金にも違反する時給69

雇用問題について考える



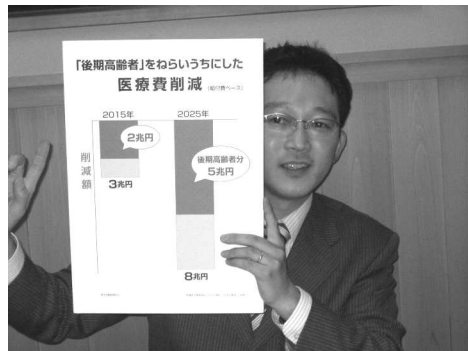
4月27日、新宿区柏木支部が開いた「雇用問題について考える懇談会」

5円で働かせられたため、新宿一般労組に加入して団体交渉し、1勤務につき2000円を支払わせることができた、という発言がありました。

富田なおきは、これまで取り組んできた若者アンケートや青年から直接聞いた雇用の実態、東京労働局との交渉などについて報告しました。

衆議院比例東京ブロックの池田真理子さんが、規制緩和で雇用が破壊されたこと、日本共産党が発表した労働者を保護する政策や志位委員長の国会での質問が大変な反響をよび、大企業の現場でも派遣労働者を直接雇用する潮目の変化が生まれていることなどを紹介しました。

後期高齢者医療制度



4月23日、新宿区牛込北地域で開かれた懇談会で、パネルを使って説明

新宿区の牛込北地域の党が開いた懇談会には、会場いっぱいの人々が参加。口火を切ったのは、高齢者クラブの会長さん。後期高齢者医療制度について、「保険料がいったいいくらになるのか、少ない年金く

らして不安でたまらない。生協の食料品の注文も今月から半分にした。年金から天引きなんて、泥棒に追い銭をやるようなものだ」と怒り心頭。

意見・質問が相次ぎ、富田なおきはパネルもつかって説明しました。司会者の「実施されてしまったのだから、あきらめるしかないと思いますか」との問いに、納得する人はなく、ある方は、「党派がどうの問題ではない。多くの人に話さなければ」。牛込北地域ではその後、懇談会に参加された方や町会長さんなどがどんどん署名を集めているそうです。

第79回メーデーに参加

(5月1日)



新緑のまぶしい中を、代々木公園から、19歳の頃アルバイトしていた表参道を通り、明治公園までデモ行進しました。

自転車で辻宣伝



4月から、自転車にハンドマイクとのぼりを付けて辻宣伝を開始。たすきをかけたまま移動、かなり目立ちます。「さっき新宿西口でやっていたわね。聞いていたわよ」と声をかけてくれる方、思いがけない知人と出会い握手をかわすなど、感激の連続です。

青年キャラバン宣伝

(5月7・8日)



全国を回る青年学生キャラバンで宣伝。写真は、御茶ノ水で谷川智行さんと

富田なおきの生いたち

中学1年の10月に転校した先は、男子は全員丸刈り。2年の時、新任の若い先生から「なぜ制服や坊主頭か考えたことあるか」と言われ、どうするかが生徒会の懸案事項になっていました。「討論会に参加するには事前に意見書を提出しろ」と言われ、内申書を気にしながらも意見書を出したり、クラスでの参加の呼びかけをしました。この頃は担任の先生からは良く

校則改正に取り組み丸刈り廃止を実現



髪を少し伸ばした卒業式



丸刈りだった中3の4月

思われていませんでした。その後、校則改正を掲げる会長候補を推してその責任者になり、会長選挙は負けましたが、私は生徒会事務局長に推されました。何カ月もかけてクラス討論に取り組み、中3の11月に丸刈り廃止など、校則の改正を実現しました。一方では、クラスの番長に頼まれて、女生徒への手紙の代筆をしたこともありました。